

自己評価報告書

平成23年 5月23日現在

機関番号：12603

研究種目：基盤研究 (C)

研究期間：2008年～2012年

課題番号：20520703

研究課題名 (和文) スールー海域世界を中心とする特殊海産物の移動と越境に関する歴史人類学的研究

研究課題名 (英文) Historical Anthropological Study on Flow of Maritime Products in Sulu

研究代表者：床呂 郁哉 (TOKORO IKUYA)

東京外国語大学・アジア・アフリカ言語文化研究所・准教授

研究者番号：90272476

研究分野：文化人類学

科研費の分科・細目：文化人類学・民俗学

キーワード：スールー海域世界、東南アジア、文化人類学、もの

1. 研究計画の概要

スールー海域世界と東・東南アジアなど周辺地域間での真珠、ナマコなど特殊海産物の生産、流通、利用状況の変遷について人類学的に調査研究を実施する。

2. 研究の進捗状況

前年度まで、研究計画に述べたようにスールー海域世界と東・東南アジアなど周辺地域間での真珠、ナマコなど特殊海産物の生産、流通、利用状況の変遷について、アジア各地等において調査研究を実施した。この調査の過程で前植民地期におけるスールー諸島からの輸出品としては真珠母貝が量的には最も多く、また重要であったことが判明した。スールーの真珠は、マラッカなどを中継点として遠く中東や西欧にまで輸出され、ロンドンでは「マニラ産」の真珠貝として売られていた。すでに西暦13世紀頃には、華人商人がスールー諸島のホロ島を訪問して真珠や蜜や森林物産などを買い付け、それらの物品を中国へ輸出していったことが知られている。その対価として、中国からスールーへは黄金、銀、陶磁

器、木綿製品などがもたらされたことなどを解明した。こうしたプレモダン (前植民地期) から現代まで持続してきたモノのフローのいわば「長い持続」とも言える現象もスールー諸島と周辺地域において顕著である。具体的にはフカヒレ、干しナマコ、そして真珠などのいわゆる特殊海産物と燕の巣などの特殊森林物産を挙げることができる。スールー諸島域内から中国などへのこうした特殊海産物・森林物産の輸出の歴史は古く、既に13世紀前後には中国の史書などに記録されている。アメリカによる植民地化が始まる20

世紀より前においては特殊海産物の輸出はスールーの主要産業であったが現在でもそうした特殊海産物のフローの持続が存在することを調査を通じて解明しつつある。

3. 現在までの達成度

②おおむね順調に進展している。

昨年度までに現地調査を実施して、スールー諸島と周辺地域に関する真珠生産の実態とその流通に関する基礎資料を収集することができ、また文献調査から歴史的背景についても一定の理解を得ることができた。

4. 今後の研究の推進方策

今後はとくに東アジアなどの周辺地域とスールー海域世界の海産物のネットワークなどについて調査を進める。

5. 代表的な研究成果

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

〔図書〕 (計1件)

『「もの」の人類学』床呂郁哉・河合香吏編。京都大学学術出版会 (2011年3月)。最初のページ：1 ページ 最後のページ：381 ページ